

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O

2004

9

September

4.5 特集 人育て・学校づくり・まちづくりは三位一体で!

- 2 **トピックス** 第45回関東甲信越静公民館研究大会開催
- 3 **視点** 5回目を迎えるふれあい合宿
- 3 **ひろば** 中条町の公民館活動
- 6 **実践記録シリーズ** 地域ぐるみで居場所づくり
- 7 **サークル交流** 粋いきカラオケ連合会(阿賀野市) / LEE(松代町)
- 7 **素顔拝見** 菊地民男さん(見附市) / 山田伸也さん(与板町)



能生町「海洋スポーツ教室」



第45回関東甲信越静 公民館研究大会(東京大会)開催

協働を育む公民館活動をめざして

第45回関東プロ大会は、去る8月26日(木)と27日(金)の二日間にわたり、東京都公連主管の下、昭島市民会館を主会場に開催された。

参加者総数千余名が一堂に会し、「公民館の創造」を協働を育む公民館活動をめざしてをテーマに掲げ、研究討議が展開された。

初日は全体会で、開会式及び表彰式が行われた後、映像でつづる「東京都の公民館」がビデオ

上映されたが、三多摩地区を中心に今日まで展開して来た東京都公連の歴史的な活動経緯を知ることができた。

引き続き、基調報告の後のシンポジウムでは、本大会に掲げたテーマについて、各分野、領域から選出された3人のパネラーにより具体的な意見発表がなされ、第2日目の分科会への流れにもつながることができた。翌日の分科会は15分科会が設定され、7会場に分かれての研

究協議が展開された。

本県担当分科会は、「市町村合併の動向と公民館の対応」を昨年に引き続き担当した。

新潟市関屋地区公民館佐野憲昭館長の司会進行の下、新発田市市町村合併について、第一次合併と公民館の状況(豊浦町との)そして第二次合併(紫雲寺町と加治川村)に向けて、最後にこれからの課題とめざすべ

き方向について、新発田市中央公民館渡邊徳廣館長が発表を行い、後半は、参加者各自の持ち寄り課題を中心に研究協議を深め、最後は、廣瀬隆人先生から総括していただいた。

なお、初日全体会での平成16年度全国公民館優良職員並びに永年勤続職員表彰では、二名の方が受賞された。

そして関プロ公連表彰では、今井昭友前県公連会長が受賞された。

それから、現下の急務の課題についての緊急アピールが提案され、万場一致で承認された。(左方掲載)

平成16年度全国公民館

優良職員・永年勤続職員表彰(本県関係者二名)

優良職員表彰受賞者
・八木 清宣 様

(前見附市中央公民館 事業係長)

永年勤続職員表彰受賞者
・登坂 啓助 様
(燕市東公民館長)

関プロ公連表彰受賞者
・今井 昭友 様
(前新潟県公民館連合会会長)

公民館の存続と管理運営に関する緊急アピール(案)

(前略)

第四十五回関東甲信越静公民館研究大会に参加した私たちは、地域社会における社会教育の中核施設としての公民館の意義を再確認し、今後も地域住民とともに歩むことを決意しました。このような中、市町村合併による公民館の統廃合や管理運営を含む全面的な外部委託は、民主的地域社会の発展の阻害要因になることが危惧されるため、以下のアピールを行うものです。関係当局、諸機関は本アピールの趣旨を踏まえ、一層の公民館の充実を図るよう強く要望いたします。

記

- 一、市町村合併等が行われても、旧市町村の地域配置を堅持し、合わせて専門職員を適切に配置すること。
- 二、公的に学習権を保障する教育機関としての公民館を民間委託しないこと。
- 三、公民館関係者として、地域に根ざし、住民とともに歩むことを基本に、我々は日々努力する。

平成十六年八月二十六日

第四十五回関東甲信越静公民館

研究大会参加者一同



△シンポジウム



△本県担当の分科会

視点

5回目を迎える ふれあい合宿

西川町社会教育課 社会教育係長 二村 常春



西川町では、青少年育成町民会議主催で「ふれあい合宿」という通学合宿を平成12年度から続けている。それまでの1泊2日のキャンプ泊をやめ3泊4日宿泊所（県立青少年研修センター）と学校を往復する合宿に変えた。町内にある全ての小学校5・6年生を対象に募集するもので、毎回80〜100名ほどの参加がある。

子どもたちは、異学校異学年との集団生活に大きな期待と不安を抱いて臨む。いつもとは違った適度な緊張感を持続させてこの3泊4日を過ごし終えると、「友だちがたく

さんできた。来年もまた来たい。」との感想が多く寄せられる。

しかし、運営面では課題もある。第一に、下校後では宿泊所での活動時間があまり取れないため、夜はレクリエーション中心になってしまふ。宿題タイムでの集中した勉強ぶりなど見られるものの、体験活動としては何か物足りな

い。第二に、連日宿泊できるスタッフの確保が難しく、いつも頭を悩ませる。学校にも協力が欲しいところなのだが、今年も募集時期が近づいた。

掲 示 板

公民館月報第1回編集委員会開催



- 1 日時 平成16年9月1日(水) 13:30~15:30
- 2 会場 新潟市中央公民館 203号室
- 3 内容 (1) 平成16年度原稿執筆割当計画について (2) 平成16年度下半年特集計画について (3) その他

●編集委員名簿●

No.	氏 名	所属公民館並びに役職
1	角山 稔	新潟県立生涯学習推進センター 学習振興課 副参事
2	磯野 茂	糸魚川市中央公民館 主査
3	藤巻 誠	十日町市公民館 館長
4	松田 光正	広神村公民館 館長
5	佐藤 晴夫	豊栄市中央公民館 館長
6	樋口 栄子	新潟市北地区公民館 主査
7	小笠原将臣	新潟市中央公民館 主事

中条町の公民館活動

中条町公民館運営審議会委員 武田 周一郎

8月15日中条町成人式
この式典では新成人、未成人、実年人が、同じ学び舎に通った町民同窓生として各出身中学の校歌と一緒に歌い上げる。

このように地域との接点が希薄な若者、地域から離れてしまった若者を地域に帰してやる活動が公民館主導で進んでいる。

昨年の中条大祭の民謡流し 多くの実年人たちが踊る中で、若者たちは踊り方を知らないために同じ場所に居ながら踊りの輪に加われないでいた。

今年はお祭りに参加して



いる山車の若衆に声をかけて、地域の若者に踊りを伝える場をつくった。もちろん伝えるのは民謡協会の実年人。地域と若者をくっつける活動が世代間をつなげる活動につながっている。公民館が糊になつての有機的ネットワークがみえてきた。これからも、人と人をくっつける公民館の活動に期待したい。

～予定原稿から～

・まちづくりは三位一体で!

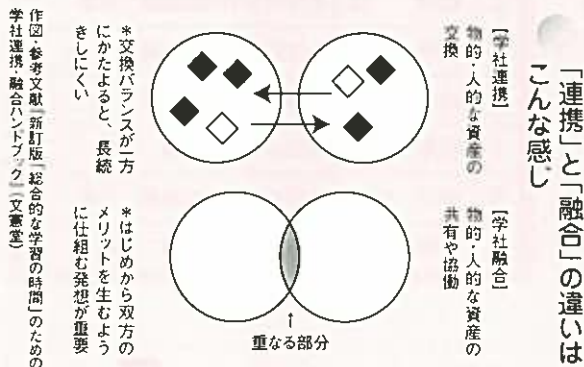
〈添付資料〉

1. 生涯学習のまちづくりは「2つの学校機能の開放」から
2. 「学社融合」は、人育て・学校・まちづくりを一体で推進

◆生涯学習のまちづくりは「2つの学校機能の開放」から

1. 「学社融合」による「授業の協働」で「開かれた学校」創り

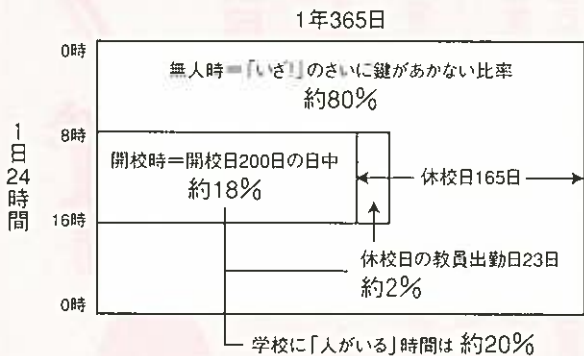
*ビデオ (6分) 秋津小学校と地域は双方にメリットを生む「学社融合」を推進
NHK教育テレビ 1999年4月24日 教育ツディー 汐見稔幸東大助教授解説



2. 「学校施設の共用」による「開かれた学校」創り

*ビデオ (5分) 学校がまちの社交場
NHK総合テレビ2001年3月29日放送 ひろどき日本列島・総集編

避難所としてとらえたときの学校施設の状況

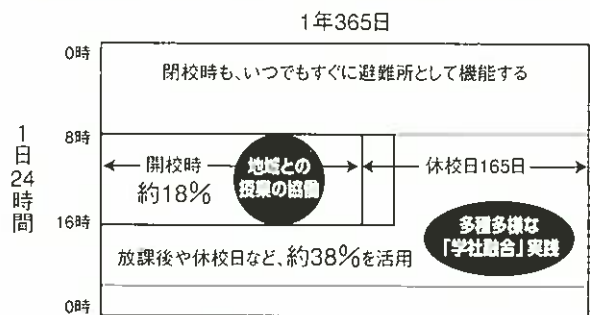


※図はいずれも岸裕司著『「地域暮らし」宣言—学校はコミュニティ・アート!』(2003. 12. 太郎次郎社)より

◆「学社融合」は、人育て・学校・まちづくりを一体で推進

※秋津では、学校を拠点にした休校日の活動を含めた「学社融合プログラム」は年間33もあります。
(プログラムの詳細は、『「地域暮らし」宣言—学校はコミュニティ・アート!』に出ています)
※秋津ではこのように、学校機能を楽しくいかしています。

学校を開くことによるハード面・ソフト面での可能性



◆「学社融合」は、「方法」であって「目的」ではありません。目的は以下の2つの学校を目指すこと。

- ①住む人も働く人も、だれでもがいつでも学べる、生涯学習のコミュニティづくりに寄与する学校。
- ②住む人も働く人も、だれでもが安心して安全な、ノーマライゼーションのコミュニティづくりに寄与する学校。

(参考) 岸裕司著 共に、発行：太郎次郎社

TEL 03-3815-0605

●『「地域暮らし」宣言—学校はコミュニティ・アート!』(2003. 12. 本体¥1900 学校と地域の融合教育研究会の紹介もあります)

●『学校を基地にお父さんのまちづくり—元気コミュニティ! 秋津』(1999. 4. 本体¥1800)

予 告

平成16年度中越地区公民館長・主事・公運審研修会

11月25日(木) 六日町文化会館

講師 岸 裕司様

特集

第55回新潟県公民館大会 基礎講演レジュメ

人育て・学校づくり

広告デザイン会社(株)パンゲア

代表取締役

岸 裕司



第55回新潟県公民館大会
(兼 第52回中越地区公民館研究大会)
2004年7月16日
長岡市立劇場
習志野市・秋津コミュニティ顧問
学校と地域の融合教育研究会副会長

中越地区水害の
ため開催中止
↓
紙上大会に

【テーマ】

人育て・学校づくり・まちづくりは三位一体で！

～「融合の発想」で楽しく元気に地域力の向上を～

◆市民も行政も得をする「融合の発想=Win & Win」で
事業を仕組むことが成功のポイント

◆「融合の発想」の一部に「学社融合」や「行政内融合」
などがあり、さまざまに展開できる

◆「2つの学校機能」を開放すると、学校と社会教育双方
が得をし、以下の3つが育まれる

①生涯学習のコミュニティづくり

②少子高齢社会に対応した医療費が安く済む健康的な
コミュニティづくり

③安心して安全に働き暮らせるコミュニティづくり

〈「融合の発想」で事業を仕組むと

どんなことが可能で社会教育行政はどんな得をするのか〉

事例1. だれもがつながる「^{こえん}子縁を通して仲良くしま
しょ！」—「学社融合」で「2つの学校機能」
を開放することがポイント

*ビデオ 6分 地域のパワーで開かれた学校 NHK教
育テレビ 1999年4月24日 教育ツディー 汐見聡幸
東大助教授解説

注意：クラブ活動は2002年度より土曜日から火曜日に移
行しました。そのことにより仕事を持つ主に男性
が参画できなくなりました。そこで事前に総合型
地域スポーツクラブを創設し、地域が学校や近隣
のスポーツ施設を活用して自主運営しています。

○「学社融合」成功の入口は「教員の置かれた大変な現
状」を親や地域に理解してもらうこと。

○学校や行政の「人材活用」の発想や、市民側の「～支
援」は×(ベケ)⇒誰でも参画できる「協働=融合の
発想」がポイント

○公民館職員は「融合の発想」を使いこなせるコーディネ
ーターになって、公民館地域の「学社融合」を推進
しよう

事例2. 利用者による「自主・自律・自己管理」による
公共施設の運営で、協働型の生涯学習のコミュ
ニティづくり

*ビデオ 5分 NHK総合テレビ「ひるどき日本列島・
総集編—学校がまちの社交場」2001年3月29日放送

○秋津コミュニティ内部に「秋津小学校コミュニティルー
ム運営委員会」を創設⇒管理責任は「教育長」⇒市教
委内に「規定」を設け「校長管理」を止める。4室+
畑敷敷地300㎡+陶芸窯⇒年間千回+1万2千人利用+
40サークルと各種団体+校長・幼稚園教頭・保育所所
長・公民館長は「特別構成員」+市の支出は年間3万
円(+水道光熱費=1学級分の年間費用に相当)

○少子化により空いた花壇はコミュニティのサークルが
借用⇒安全で安心な学校とコミュニティづくりに発展

事例3. 自助・共助、最後に公助のまちづくり—自主防
災+助けあいのノーマライゼーションのコミュ
ニティづくり

*ビデオ 5分 第6回防災被災訓練を兼ねた一泊キャン
プ・秋津 習志野テレビ「きらっと習志野」2002
年7/25～31放送

○市防災課+消防署+災害時の避難所の学校施設+町会
自治会+若い家族のキャンプ体験⇒自主防災のコミュ
ニティづくり

◆今こそ、公民館・社会教育の番！

・2001年(平成13年)7月に改正された「学校教育法」
第18条に社会教育との連携の必要性が加えられました。
「小学校においては(注：中学校と高校・盲・聾・養
護学校も準用)、……教育指導を行うに当たり、児童の
体験的な学習活動、とくにボランティア活動など社会
奉仕体験活動、自然体験活動その他の体験活動の充実に
努めるものとする。この場合において、社会教育園
係団体及び関係機関との連携に十分配慮しなければならない。」(傍線は岸。同時期に改正された社会教育法
にも同様の文言が付加された)

実践記録

78

シリーズ

第55回新潟県公民館大会 実践事例発表3から

地域ぐるみで 居場所づくり

村上市生涯学習課公民館係
係長 倉松 淳志

◆はじめに

いじめや、不登校、犯罪の増加など青少年をめぐる様々な問題が起きています。その解決策として「奉仕活動・体験活動」があげられ、社会全体で奨励・支援のための方策がとられています。村上市でも、今年度から文部科学省の新規事業、子どもの居場所づくり新プラン「地域子ども教室推進事業」に取り組み、地域の人、物、金（助成金）などの教育財を有効活用する取り組みをはじめました。いかにこの教育財をうまく結び付け、地域ぐるみの活動ができるかが、これからの課題です。

◆公民館の組織・概要（省略）

◆事業の背景

1. 基準や審申の流れ

平成15年6月に、公民館の設置運営に関する基準が全部改正となりました。平成13年の社会教育法の一部改正や平成14年の中央教育審議会答申「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」を踏まえ、公民館でも体験活動に関する学習機会・学習情報の提供の充実に努めるよう新たに規定が追加されました。

2. 地域課題等

(1) 不登校

平成16年度、不登校割合は前年度より低下してきていますが、県平均と比べると高く、市の重要課題の一つになっています。今年度、学校教育課は、ふれあいルーム（適応指導教室）の職員を増員し、取り組みの強化を図っています。

(2) 体力低下

村上市岩船部における体力テストの結果は、全体的にはほぼ県平均並みですが、全国と比較すると低い水準にあります。「村上市岩船部小学校児童の体力向上のための方策」についての答申（平成16年1月）では、地域社会でも、児童が体を動かすための環境の整備と充実などの取り組みが必要と提言されています。

(3) 読書活動

県内の小学生の読書量が全国平均よりも低い状況にあります。今年3月に策定された「新潟県子ども読書活動推進計画」を踏まえ、当市も読書活動を推進する取り組みが必要です。

(4) 子どもフリースペース

核家族化、少子・高齢化に伴い、子どもフリースペース（居場所）の設置が、県内外の公民館で広がっています。当公民館においても居場所づくりのあり方を検討する必要があります。

3. 財政と事業見直し

長く低迷する経済や三位一体改革により、今年度も厳しい予算編成となりました。公民館事業についても、大きな見直しが必要となり、一つ一つの事業について担当者が事業評価をし、今後の必要性について職員全員で協議しました。その結果、類似事業の統合、県外の国立自然の家などを拠点とした活動は休止となりました。

今年度の補助・委託事業は、「子どもゆめ基金」、「学校内外を通じた奉仕活動・体験活動推進事業」、「地域子ども教室推進事業」、「家庭教育支援総合推進事業」です。

4. 村上市体験活動ボランティア支援センター

社会教育係では、平成14年度から学校内外を通じた奉仕活動体験活動推進事業として、村上市体験活動ボランティア支援センターを設置して、学校での総合的な学習の時間等の支援相談窓口としての役割をスタートさせました。今年度委託の最終年度ですが、青少年のボランティアの受け入れ調査と学校への提供、学習プログラムの共有化へ向けた整備、生涯学習アドバイザーとしての見直しなどの業務を進めています。

◆わくわくキッズクラブ

このような答申や地域課題等の背景のもと、子どもの体力向上、楽しい読書活動の奨励、公民館を居場所とした体験活動を促進するため、今年度から文部科学省の子ども居場所づくり新プラン「地域子ども教室推進事業」に計画申請しました。

当市は、放課後児童健全育成事業が行われていることから、活動日は

放課後の活動ではなく、土曜日の午前、午後に設定しました。異年齢交流や体験活動などを通じて、子どもたちの自主性・創造性・社会性などを育むことをねらいとし、地域で子どもを育てるという視点で事業計画しました。

(概要)

1. 活動場所

活動内容に応じて、中央公民館、村上市小学校体育館、村上市南小学校体育館、二之町児童館を会場としています。

2. 活動時間

土曜日の午前9時30分から11時30分、二之町児童館は午後1時30分から午後3時です。

3. 活動内容

活動指導員による体験活動やレクリエーションスポーツ、自由な遊び、読み聞かせです。

4. 運営体制

村上市子ども教室実行委員会（下記、構成団体）
体験活動の支援者として、ご協力いただけそうな団体に依頼し、実行委員の構成団体になっていただきました。

構成団体		構成団体	
1	小中学校代表	10	体育館連日協議会
2	新潟県公務員連盟岩船部村上市支部	11	スポーツボランティア
3	PTA代表	12	いわふね青年会議所
4	村上市文化協会	13	ボランティア連絡協議会
5	読み聞かせグループ「たんぽぽ」	14	NPO地域支援パートナーズセンター
6	村上市老人クラブ連合会	15	健康推進課（元気子ども室）
7	村上市婦人会	16	学校教育課
8	社会教育委員	17	生涯学習課
9	生涯学習審議会		

5. 家庭、学校、地域の相互連携

文部科学省で作成された実施のための手引きを参考にしています。広報活動では、公民館が全面的に行うのではなく、地域の大人が協力・参加する事で、多様な活動が可能になることや、触れ合いの大切さなどをアピールしました。学校には、募集案内の配布依頼など、子どもたちへの参加呼びかけにご協力頂きました。

6. 安全の配慮

昨年9月に当市において、暗取誘拐事件が発生したことから、文部科学省で作成された安全管理マニュアルの簡略版として、安全管理マニュアルを作成しました。研修会として、下記の内容を計画しました。

①安全管理研修会		②不審者対応と侵入時の対応	
講 題	小 学 校 養 護 教 諭	講 師	警 察 署 職 員
内 容	・過去の事例から見た注意事項 ・子どもの行動特性について ・学校での役割について	内 容	・不審者対応について ・侵入時の対応策について

7. 体験活動ニーズアンケート調査（省略 大会資料 P31参照）

8. 活動カレンダー（省略 大会資料 P32参照）

◆終わりに（自主継続に向けて）

4月から準備を進めてきましたが、新たな取り組みだけに、細部にまで準備が行き届かない点もあります。今後、当市では、行財政構造改革にもけた全事務事業の見直しや、合併事業も予測されるなど、人目的に苦しい事業展開となるように思います。

事業の最終目標である自主継続できるようにするためには、家庭・学校・地域で連携して、お互いに協力し合って運営する、地域社会に組織される環境を作ることが重要であると思います。

また、子どもたちは人との関わりの中から、社会のルールやコミュニケーション能力、相手を思いやる心などが育まれ、成長していくということの大切さを、核家族や少子高齢化が進んでいる今こそ、再認識することも必要かと思えます。

数年前までは、町内単位でも運動会が盛んに行われ、町内で集まる場がありましたが、何らかの事情により、少なくなってきました。大人の事情もあるかと思いますが、地域での人間関係の希薄化も指摘される今、体験活動を意図的に企画・計画することが必要かと思えます。

子どもを取り巻く課題を共通認識し、ねらいをはっきり定め、地域を挙げて取り組むことこそ、地域コミュニティの再生につながるものと思います。議論ばかりではなく、行動する一歩が大切のように思います。その一歩を踏み出したとき、大勢の支援者が集ってくることを願って…。

稗いきカラオ

6時間107曲
稗いき
カラオケ連合会



出演者106人、休憩なしで6時間連続107曲を披露。
これは、阿賀野市の笹神地区にある7つのカラオケサークルが年一回一堂に会し、カラオケ連合会を組織して開催する「稗いきカラオケ発表会」の様子です。今年第10回という節目であり、今までの公民館から今年しゅん工したばかりの「笹神体育館」を会場に、出演者を含め約450人が集いました。

最初のきっかけは、町にALSTが派遣されたことからです。それまでは、受け入れ体勢が整っていなかったこともあって、英語でコミュニケーションをとりたいという仲間

異文化交流
LEE
(Let's enjoy English)



出演者は女性が多く、80歳の熟年も元気に歌いこなし拍手喝采です。「お腹から声を出すこと」「歌詞を覚えること」「人前で歌うこと」で、健康増進・ボケ防止・美容効果に期待大。
活動を全市内に広げ、第20回・30回を目指します。
阿賀野市稗いきカラオケ連合会
会主 碓井 守 記



が集まって週一回の練習と、季節毎に様々な各々の習慣や行事を紹介し合いながら親交を深めてきました。今年で5年目に入ります。当初から続けていることの一つに、英語で日記を付けること。その日や一週間のトピックスを全員が発表すること等、楽しい反面、何も書けない時もありますが毎日少しずつ続けることが上達への道と頑張って頑張っています。メールを交換したり、帰国したALSTの園を訪問して、更に親交を深めてきたチャレンジャーもいます。
松代町 LEI
事務局 大野保子 記

2年前の春、彼は新規採用で教育委員会に配属された。児童クラブと勤労青少年ホームの担当となったが、すぐに事業の企画から実施・運営までこなし、周囲に即戦力となる新人として印象づけた。現在は、公民館、資料館関係にまでも仕事のフィールドが広がっても、持ち前のフットワークの良さで難無くこなしている。仕事で付き合う相手は、若者から高齢者と幅広い

与板町教育委員会生涯学習係
主事 山田伸也さん



が、自分の考えがしっかりしていて、高齢者には気配り・心遣いで対応し、横綱を張る酒の強さと口から溢れるユーモアたっぷりの言葉は世代を超えたコミュニケーションをより深いものとし、甘いマスクとカリスマ性は乙女の心を捕らえて離さない。自らも指導者を務める少年野球では、そのプレーが少年たちの憧れとなっている。

(与板町教育委員会生涯学習係 森 一 記)

若い女性には優しく、綺麗な女性には親切丁寧な彼は、ご年配の女性に大人気。

今年24回目を迎えた「中央公民館まつり」でも担当者として体を張って頑張っていました。5月22日～29日の一週間に、民謡や大正琴、フォークダンスや社交ダンス、歌に詩吟等の発表会と、絵画や生け花等の作品展が目白押しでした。さぞかし女性に持てた

見附市中央公民館
主任 菊地民男さん



ことでしよう。うんうん、とても大事なことでよね。仕事を離れば、消防団に所属して11年。今年めでたく退団を迎えたのでした。“世のため・人のため”に働く彼は、まさに公民館職員としての素質十分。周りからも頼りにされてます。若くて素敵な男性に、親切丁寧な同期の私も応援してます。一緒に頑張ろうね。

(見附市中央公民館 遠藤 智子 記)

素顔拝見

Network

ネットワーク

平成16年度 下越地区公民館関係役員研修会案内

- 1 研修テーマ 変革期における公民館活動
～熱気、活気、やる気のある公民館をめざして～
- 開催趣旨 (省略)
- 2 主催 下越地区公民館連絡協議会
- 3 共催 新潟県教育委員会、新潟県公民館連合会、新発田市教育委員会
- 4 主管 三市北蒲原郡公民館連合会、村上市岩船郡公民館連絡協議会
- 5 期日 平成16年10月7日(木)～8日(金)
- 6 会場 月岡温泉「ホテル清風苑」 TEL 0254-32-2000
新発田市大字月岡278-2 FAX 0254-32-2945
- 7 対象 公民館職員及び公民館運営審議会委員等
- 8 日程

	11:30	13:00	13:30	13:40		17:00	18:00	20:00
第1日目 10/7(木)	受付	開会式	移動	分科会		休憩	情報交換会	

	9:00	10:00	11:30	11:45
第2日目 10/8(金)	分科会報告 講評	講演会	閉会式	

- 9 分科会
- ①第1分科会 テーマ「時代に即応した公民館」
主な発表内容(主題)～市町村合併と公民館・類似施設、関連施設と公民館
 - ②第2分科会 テーマ「少子・高齢化と公民館」
主な発表内容(主題)～子育て支援と公民館
 - ③第3分科会 テーマ「学校と地域を結ぶ公民館」
主な発表内容(主題)～出前講座「放課後なごみサロン」等からみた公民館の役割
 - ④第4分科会 公民館初任者研修会
テーマ「公民館職員のあり方・公民館利用者との関わり」
- 10 分科会講評 下越教育事務所 社会教育課長 小松茂夫様
- 11 記念講演会 演題 「変革期における公民館のあり方」
講師 さいたま市立岸町公民館長 片野親義様

- 12 参加経費
- ①会議資料代 2,000円
 - ②会議資料代+情報交換費(7,000円) 9,000円
 - ③会議資料代+情報交換費+宿泊代(9,000円) 18,000円
- ※なお、9月21日(火)以降の取り消しについては、資料代及び宿泊料等のキャンセル料を負担していただきます。
- 13 申込み等
8月25日(水)までに別紙参加申込書により、各市町村分を取りまとめ事務局へメール・FAXで申込みをお願いします。
参加費は下記口座に9月3日(金)までに振り込んでください。

ささかみ農業協同組合本所 普通預金 0005055
三市北蒲原郡公民館連合会 会長 見原 健司

- 14 会場案内 省略
- 15 事務局
〒959-1918 新潟県阿賀野市山崎77
阿賀野市笹神公民館(三市北蒲原郡公民館連合会)
TEL 0250-62-4141 FAX 0250-62-2064
メール syogaigakusyu@city.agano.niigata.jp

恵贈資料紹介 社会福祉総覧

全国高齢者社会福祉協会から事前に電話、そして恵送されて来た大冊です。

主な内容構成は、第一章高齢社会大綱、第二章高齢化の状況、第三章高齢者雇用の推進(厚生労働省)、第四章介護保険見直しの方向について、第五章介護保険制度外の高齢福祉サービス、第六章社会福祉基礎改革について、第七章社会福祉基礎構造改革について(中間報告)、第八章社会福祉関係税制、第九章成年後見制度、新しい成年後



見制度スタート、第十章障害分野での支援費制度、第十一章障害者施策と地域福祉の推進、第十二章民間参入・移管拡大による官製市場の見直し、第十三章、21世紀に求められるシルバ

全国高齢者 社会福祉協会

サービス(ビジネス)、第十四章主要な福祉用具市場(ナビゲーションガイド)、第十五章行政体制の整備(厚生労働省)、第十六章高齢社会対策の方向、そして資料編、名簿編、特別資料編に及び五七〇頁の大冊です。

とくに第八章の税制上の特典、第九章の成年後見制度、第十章各種支援費制度、第十四章福祉用具市場の実状等詳細に読みたい項目でしょう。

冊子自体の装丁のすごさも驚かされました。

募集!! 第5回
インターネット活用実用コンクール
平成16年9月30日(木) [応募締切]

チャレンジしよう!
あなたのインターネットで

大臣賞をもらえ!

www.netcon.gr.jp

第45回あ と が き
45回開プロ大会(東京)には、四十数名の方々からご参加いただき、ありがとうございました。大会参加者の名におい

て、7・13水害被災カンパがなされ、感銘を受けたところで、開プロ大会事務局に、被災地県公運として心よりお礼申し上げます。(鈴木 記)

表紙解説 能生町「海洋スポーツ教室」 主に教室運営をしている能生海洋クラブでは、町内小中学校での総合学習などで、カヌーヨットの体験教室を行っています。

発行所 新潟県公民館連合会 発行人/会長 佐藤信幸 編集人/事務局長 鈴木友夫 Eメール/ni-koren@juno.ocn.ne.jp
〒951-8053 新潟市川端町2-9 県林業会館内 TEL・FAX(025)224-6073

印刷/第一印刷所 〒950-8724 新潟市和合町2-4-18 TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776 【定価1部150円 年共1,800円】